

□□たちが「あなたがたはわが□、わが□□の□なり、あなたがたは□なり」の□について□ったように□ Yevamot,

61a□、□々は□としてとどまることなく、□の□□を□る□□であるパール・ハスラムのメソッドに□い、その□を□りたいと□う□□々のための□□を□くために、ここに□まった。また、ラシビは「あなたがたは『□』と□ばれる、そして□□□□は『□』と□ばれない」と□った。

□の□□・□□を□□するために、いま「□の□する□は、すべて□われた。すなわち、□を□れ、その□□を□れ。これはすべての□の□□である。□□□の□・コヘレトの□□,

12:13□」の□について□□たちが□べた□□ Berachot,

6b□を□げるとしよう。また、ゲマラーは「『これは□ての□の□□である』とは□か□」と□う。

ラビ・エラザーは「クリエイターは『□□□□がそのためだけに□□された』と□う。これは□□□□が□への□れのために□□されたことを□□する」と□った。それにもかかわらず、□々には、□□が□□された□□である□への□れが□であるのか□□する□□がある。□々は□□たちの□ての□□から、□□□□の□□が□の□□□□に□□を□えることであると□る。これは□□□□が□□の□で□せになるよう、クリエイターが□□□□を□ばせることを□んだことを□□する。そしてこの□において□□たちは「□□□□の□□が□への□れであったということ、『これは□ての□の□□である』」とその□について□った。

しかし『マタン・トーラー□トーラーの□□』の□□で□□されたことによると、□□□□たちが□しみと□びを□け□ることが□□□□の□□であるにもかかわらず、□□□□たちが□しみと□びを□け□っていない□□が、クリエイターと□□□□の□にある□□の□いにあるという。クリエイターは□える□で□□□□は□け□る□。しかし□は□が□まれた□によく□ているという□□がある。

そしてクリエイターは「しも」していなく、「クリエイター」の「を」たす「がない」という「から」、  
「々の」には「く」け「りが」いたため、「は」け「る」になる「がある」ときに「を」える。これが「  
ての」が「のパンを」べることにおいて「を」じる「である」。

それを「す」ため、「は」「され」なくてはならなかった。オラム□□□□はヘレム□□すこと「を」する  
。その□□、「しみと」びは「され」なくてはならない。「□□」そうなのか  
その「えは」れのためである。「い」えれば、「が」「□□□□」と「ばれる」□□の「け」りの「を」うことを「  
れる」ためにである。これは「が」「びを」する□□で「びを」け「る」ことを「ぐ」べきということ  
と、「□□」すること、「すなわち」□□の□□に「る」を「つ」べきことを□□する。

その「わりに」はクリエイターに□□を「もたらす」びを「け」るべきである。これは「びを」け「る」こ  
と - 「が」□□□□の□□のために「け」るときのこと -  
がクリエイターに□□することからその「を」り「く」ため、□□□□がクリエイターに□□したくなり、  
クリエイターへの「れ」、つまり□□□□のために「け」ることへの「れを」つようになることを□□する  
。

したがって、「が」クリエイターのミツヴオット□□□□の「つを」うときに、このミツヴァがその□□に  
、「の」ミツヴオットを「る」ことでクリエイターに□□するという「れのない」えを「もたらす」ことを「  
は」□□すべきだ。「□□」たちが「ラビ・ハナニア・ベン・アカシアは『クリエイターはイスラエルを「め  
た」かった。これゆえに□□クリエイター「は」らに□□のトーラーとミツヴオットを「えた』と「う」  
と□□ったように」。

そしてこれが□々がここに□まる□□ -

□々□□□□がクリエイターに□□する□□に□う□□を□くため。そしてクリエイターへの□□を□□するために、□々は「□□への□」と□ばれる□への□□から□めなくてはならない。

そして□□への□は□□□□□□を□にすることを□じて□□である。したがって、□□では□□が□いと□じるべきであり、□□ではクリエイターが□々に-□□が□々の□に□□できるよう  
-というたった□つの□□が□々□□□□にある□□の□にいる□□を□えたと□りに□うべきである。

そして□々はまだこの□□に□していないが、□々にはその□□に□したいという□□がある。そしてこの□も□々によって□□されるべきである。なぜならたとえ□々がその□の□□□□にいるとしても、その□□な□□に□することを□っているためだ。